

学科名	生物環境化学科、電気通信工学科、建築・デザイン学科、情報学科						
科目名	工業科教育法Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	後期		
必修・選択の別	教職必修						
担当者	平野 剛						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットがどのように発展してきたか説明できる。 ・ロボットに必要なセンサの種類およびその利用方法を説明できる。 ・多関節機構を動かすための座標変換を理解し、その計算方法を記述できる。 ・ロボットの制御法について説明できる。 						
日程と内容	9/15 工業高等学校の教育課程編成、新学習指導要領 9/29 専門教科の科目構成、授業の展開と教育評価 10/6 共通履修科目と原則必修科目 10/13 第1回模擬授業 10/20 第1回模擬授業 10/27 学校設定科目、施設・設備の運営と管理 10/29 特別活動 11/10 進路指導 11/17 新しいタイプの工業高等学校験 11/24 教育実習への取り組み、学生指導案 12/1 専門教科「工業」の学習指導案作成（演習） 12/8 第2回模擬授業 12/15 第2回模擬授業 12/22 総合演習 1/12 定期試験 1/19 定期試験の解説						
成績評価基準	定期試験	50%	実技	20%			
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション	20%			
	課題		計	100%			
	演習	10%					
授業到達目標の達成度	到達目標の項目は概ね講義に盛り込むことが出来ていると考えている。						
反省点	模擬講義や学習指導案作成等の実技は学生の評判も良いが、座学が学校の組織運営や教育行政の話なので学生の興味を引ける内容ではなかった。今回は現役の高校教員が科目履修していたので、教員の生の声を学生達に伝えることが出来たのが収穫であった。						
来年度の計画	受講人数にもよるが、来年度も模擬講義を2回実施したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	今回のアンケートでは3点台の項目が一つもなく、4.0から4.2の間で占められていた。また総合評価が8.1であったため授業に対して概ね学生は満足していると思われる。総合評価の理由欄には「模擬授業に対して意見をくれたのが良かった」とのコメントがあり、模擬授業の有効性が分かった。						
履修登録者数	13名	定期試験 受験者数	13名	合格者数	13名	合格率	100%